

危険物新聞 10月号 第826号

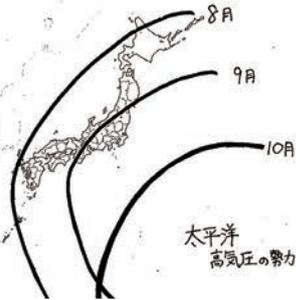
発行所 公益財団法人大阪府危険物安全協会
〒556-0017 大阪市浪速区湊町1丁目4番1号
O C A Tビル4階
TEL 06-7507-1169 FAX 06-7507-1470
URL : <https://osaka-safety.jp>
Email : anzen@osaka-safety.or.jp

令和4年度重点項目 危険物の取扱いや危険物施設等におけるリスク内容等を把握し「安全確保」の自覚と確立により事故防止を図る

- (1) 危険物や貯蔵、取扱場所でのリスクアセスメントの徹底により危険要因を把握する
- (2) 想定されるリスクに対する対策と体制を整備する
- (3) 設備の設計思想や作業手順の背景にある原理原則を理解する
- (4) リスクに気づく感性のある人材を育成する
- (5) ヒヤリハット事例等の情報共有により企業全体で「安全確保」を確立する

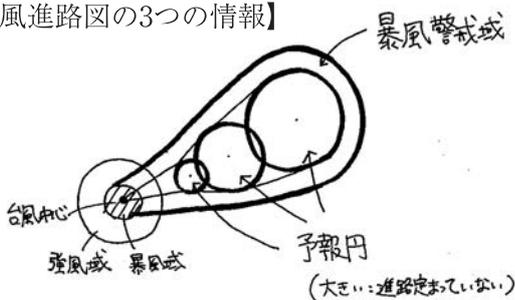
「台風来そう？」

台風シーズンですね。台風は、夏の空気をもった太平洋高気圧の縁を通る性質があるため太平洋高気圧の勢力が衰え始める9月～10月に、ちょうど本州に接近することが多いのです。



さて、この時期気象予報士・気象キャスターとして働く私は台風が発生すると1日何十人もの人から「台風来そう？」と聞かれます。勤務先のテレビ局だけでなく、道で声をかけてくれる方、ご近所さん、家族からもです。必要とされるって嬉しい！！ので、得意げに進路予想図を見せながら解説しておりますが、実は台風の進路図にある情報をくまなく読み取れば、気象予報士でなくともある程度のこと分かります。

【台風進路図の3つの情報】



① 現在の様子（中心を取り巻くように、暴風域、強風域）

中心の場所、暴風域、強風域にどの地域が入っているかどうかを知ることができます。

② 予報円

定義は「台風の中心が入る確率70%の領域」です。小さいと、その範囲に入る確率70%ということで信頼性が高い、つまり進路が定まってきたと考えることができます。反対に、予報円が大きいと、いくらその範囲に入る可能性が70%でも、広すぎるので進路が定まっていないというとらえ方をします。つまり、予報円が大きくなればなるほど進路が定まっていないということになります。

③ 暴風警戒域

予報円のどこかに台風中心が進んだ場合に暴風域に入る恐れがあるところを線で囲ったもの。予想される暴風域の半径分外側に描かれる線です。

本来なら、テレビの解説で毎回この見方を伝えるべきなのですが、2～3分しかないテレビの気象コーナーの中ではなかなか厳しい状態で、。ちなみに、円の中のどの場所に進む確率も同じで、中心を通りやすいということはありません。

暴風が吹き荒れているときには「頑丈な建物の中にいる」ことが大事です。さらに、風速35メートルを超えてくると飛ばされた看板などが空を舞い、窓を突き破ってくることがあるため、カーテンを閉めて窓から距離のある場所に身を置くとなお安全です。

【中心から離れた場所での大雨も】

ただ大雨については、台風が最も近づく時間だけでは語れません。過去に起きている台風時の災害の多くは、接近前や通過後も降り続き、台風の通過とは全く違うタイミングで起こっています。テレビなどで天気予報を聞くときには、いつ雨と風が強まるのかに着目して情報収集するとよりの確な情報が得られますよ。

しっかりと状況を把握できると、自分の命を守れるだけではなく、大事を取りすぎて旅行など大切な予定をキャンセルしてしまうこともなくなり、人生得をする機会が増えます。

次の台風が来た時にはぜひ進路や風雨の強まるタイミングを見極めるような天気予報の見方をしてみてください。初めての執筆に意気込み、緊張しましたが、役に立つお話ができるよう精進します。これからよろしくお願ひいたします。



塩見 泰子 (しおみ やすこ)

出演：NHK総合

- ・「ニュース・きん5時」(全国放送)
- ・「おはよう関西」(関西向け)

京都大学大学院人間環境学研究所

博士課程在学中

資格：気象予報士・防災士

・健康気象アドバイザー

株式会社南気象予報士事務所所属



「天気防災情報発信中」

豪雨災害リスクと危険物施設

神戸大学名誉教授
兵庫県立大学特任教授
室崎 益輝

<http://www.murosaki.jp/index.html>

豪雨災害リスクの増大

豪雨災害のリスクが増大している。大雨につながる目安としての時間雨量50mmを超える降雨、1日雨量200mmを超える降雨の回数が、年々増えている。50mmの回数を見ると、1990年代は年間250回ほどだったのが、2010年代は年間300回を超えるまでに増えている。

最近の5年間をみても、2017年の九州北部豪雨、2018年の西日本豪雨、2019年の東日本台風、2020年の熊本豪雨、2021年の熱海土砂災害など、記録的な豪雨による大災害が相次いでいる。今年に入っても、8月には前線の停滞による豪雨が東北地方や北陸地方を見舞い、9月には台風の襲来による豪雨が静岡県を見舞い、大きな被害が生まれている。

急速に進む地球温暖化が、大気中の水蒸気の量を増やし、それが大量の降雨を招く結果となっている。気温が1度上がると豪雨の回数が2倍になるといわれている。この温暖化が収まらない限り、線状降水帯による大雨や前線の長期停滞による大雨が避けられない。それだけに、大雨に備えることが喫緊の課題となっている。

豪雨による危険物施設の被害

豪雨リスクの増大に伴い、浸水による危険物施設の被害が増えている。洪水によって施設が破壊され重油などの危険物が流出する、浸水によって化学反応が起き火災や爆発が起きる、水や土砂の流入で機能がストップするといった、危険物施設の被害が各地で生まれている。

2018年の西日本豪雨で総社のアルミ工場が浸水

により蒸気爆発が起きたことは記憶に新しいが、2020年の熊本豪雨でもカーボン工場で蒸気爆発が起きている。貯蔵されていた生石灰が浸水による発熱反応で火災を起こす事例も、2017年の九州北部豪雨や2019年の東日本台風などで起きている。

ガソリンスタンドの被害も看過できない。地下タンクの浸水や発電機の水没で、給油サービスができなくなっている。1か月以上も再開の目途がつかないケースも起きている。災害時には、緊急対応や生活維持のためにガソリンの需要が高まるにもかかわらず、緊急時の供給拠点が被災するなど、それに対応できない事態も起きている。

危険物施設の豪雨災害対策

豪雨災害のリスクが増大し、危険物施設の浸水被害が増加する中で、それへの対策の強化が求められている。総務省消防庁は、2020年の3月に「危険物施設の風水害ガイドライン」を策定し、事業所に豪雨災害対策の強化を呼び掛けている。そこでは、時系列別と施設形態別に分けて、講じるべき対策が明確に示されているので、参照されたい。

豪雨災害への対応では、他の災害対応と同じく、「知る」「創る」「進める」の3段階の取り組みが欠かせない。知るでは、浸水リスクをハザードマップで確かめ、施設ごとやゾーンごとの危険性をあきらかにすることが求められる。つくるでは、防災計画をつくる、防災体制をつくる、緊急マニュアルをつくることが求められる。進めるでは、対応訓練を繰り返す、点検補修に心がけることなどが求められる。

危険物を高所に移転しておくことや水密性のある区画で保管しておくこと、土のうや止水板、オイルフェンスや自家発電機を用意しておくこと、訓練などにより緊急対応マニュアルや復旧稼働マニュアルの習熟をはかることなどが、キーポイントになる。

先進物流で顧客ニーズに応える。



1998年 ISO9001 認証取得
2008年 ISO14001 認証取得
2008年 CDI-T 初回審査(2015年更新:97%適合)



化学品の海上輸送から
陸上での保管・輸送まで一貫サポート

- ケミカルタンク
- ケミカルタンカー
- タンクローリー
- 危険物倉庫



AST Inc.
アスト株式会社

本社 / TEL 06-6538-2781
東京支店 / TEL 03-3664-9440

<http://www.ast-inc.jp/>

型破りな親と私のストーリーズ Vol.3
モヒカン君とのお出かけは一進一退

コラムニスト・小説家
中島 さなえ

宿屋を営んでいるわけでもないのに月延べ100人もの人々が寝泊まりし、夜な夜などんちゃん騒ぎを繰り返していた中島家。1階には知らない男たちが雑魚寝をしているし、2階の両親の寝室をラブホテル代わりにしているカップルまで出現する始末だ。あまりにも人の出入りが激しくて、家族と他人の境目がわからなくなっていった。

そんな中島家の居候の人々の中でも取り分け記憶に残っているのは、モヒカン頭のK君だ。父が友人たちと遊んでいたディスコで知り合ったという、まだ19歳くらいの男の子だった。冬も夏も、肩に鉾のたくさんついた黒い革ジャンを着て、髪の毛を長いモヒカンスタイルに追ったてている。とんがったルックスとは裏腹に可愛らしい子犬のような目をしたK君は、ピュアで繊細だった。時々パニックを起こして頭をかきむしって暴れたり、家を飛び出してしまうようなこともあった。純粋で奔放なK君は、よく私や兄と家で遊んでくれたり一緒に留守番をしたりなどした。

K君と私二人でスーパーマーケットへ買い物に出かけることもあった。そんな時もK君は突然立ち止まったり、何かに追われているように不安気にあたりをうかがったりしてまったく進まない。待ちきれなくイライラした私がK君の手を引いて、どちらが大人かわからないようなこともあった。そうかと思えば、さっきまでオドオドとおびえていたK君が突如として私の両腕を掴み、「うおお

お〜っ!!」と叫んでブンブン体ごと振り回し、川に投げ込もうとするふりをすることもあった。ギャン泣きする私を見てK君は、腹を抱えて笑っている。ひとしきり笑うと「ごめんね」とまた手を繋いで道を進むのだった。



それにしてもモヒカン頭の革ジャン青年と幼女のおつかいだなんて、当時にしてもよく通報されなかったものだ。たまたまなのか、うちの界限だけがゆるいのか、今でも謎だ。

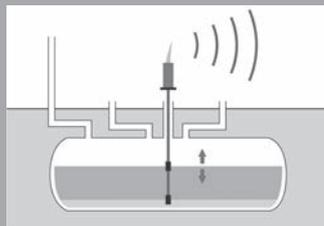
しばらくして、K君はいつのまにか中島家に遊びに来なくなった。ふと思い出して母や父の友人たちに、「そういえばK君ってどうしてるんだろう?」と聞いてみると、「わけのわからないクスリで内臓をやられて死んでしまったらしい」とか「病死か自殺かどうかもわからない」という答えが返ってきた。

当時はそうやって死んでしまった人や行方知れずになった人あまりにも多くて、死んでいようが生きていようが、ふっと気を抜いている内に目の前から人が消えることに慣れてしまっていたように思う。

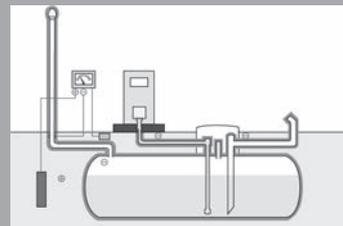
だから私は幼い時から、自分の周りから人がいなくなった時、旅に出たまま帰ってこないだけだと思うようにしている。ふとした瞬間に街で似たような人を見かけることもあれば、今にも玄関のチャイムが鳴りそうな感覚に囚われることもあるかもしれない。今でも曖昧なまま。それがいいと思っている。

40年以上経過した
地下タンクの
老朽化対策は
弊社へご用命ください。

タンクの漏えいを常時監視!
高精度液面計



営業を続けながら施工可能!
電気防食工事



TEL 072-968-2211

info@nssk.co.jp
Web https://nssk.co.jp

大阪本社 〒578-0911 大阪府東大阪市中新開2丁目11-1
TEL.072-968-2211 FAX.072-968-3900
東京営業所 〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2丁目21-6
TEL.03-5721-4789 FAX.03-5721-4787

日本スタンドサービス株式会社

基礎的な物理学・化学 #3

「なぜ水は蒸発するのか？」

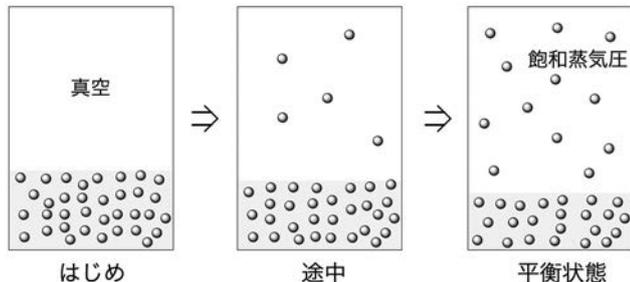
大阪大学大学院工学研究科 応用化学専攻
教授
安田 誠

<http://www.chem.eng.osaka-u.ac.jp/~yasuda-lab/>

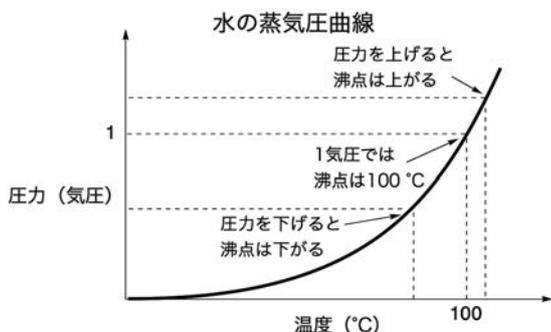
先月は、分子の観点から三態について考えた。さらに詳しく、液体と気体の行き来について考えよう。

◆飽和蒸気圧

ある密閉容器があり、この容器の温度は常に一定に保たれているとする。ここに液体を入れると、液体が蒸発し気体となりはじめる。この時、気体から液体にもどる分子もあるが、液体から気体になる分子の数の方が多いので、見かけの上では気体分子の増加と液体分子の減少が観測される。ある程度気体分子が増えると、見かけ上、変化のない状態（**平衡状態**）となる。実際は、液体から気体になる分子も気体から液体になる分子も存在するが、平衡状態ではこれらの分子数が等しく、変化が無いように見える。この時の気体の圧力を**飽和蒸気圧**（または蒸気圧）という。



下に示すのは温度と水の飽和蒸気圧の関係を示す蒸気圧曲線である。温度を上げると蒸気圧が上がっていくことがわかる。

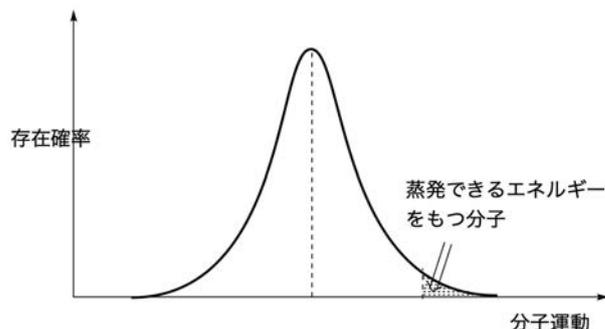


◆蒸発と沸騰

この曲線を頭に入れながら、蒸発と沸騰について考える。

コップの水をしばらく放っておけば、水が減っていくことを知っているだろう。これは、液体の

表面から**気化**（気体になること）する現象で、「**蒸発**」とよばれる。つまり、100℃で沸騰させなくても、水は気体になるのである。この「蒸発」という現象は、「**沸騰**」と区別しておく必要がある。コップの水には、1気圧（1013.25ヘクトパスカル）の大気圧がかかっている。水分子は分子間力を打ち破り、この大気圧を押しつけて液面から元気に飛び出すことで気体となる。前回、温度を上げると分子の運動が激しくなることを説明した。詳しく分子をみると、ある温度において、すべての分子が同じ分子運動の激しさをもっているのではなく、下図のような分布をもっている。100℃に達していない水でも数は少ないけれども、液面から大気圧に抗して飛び出すことのできる分子が存在する（図の網掛け部分）。この現象が蒸発である。温度を上げるほど、この元気な分子の割合が増えていくことから、温度の高い液体ほど蒸発しやすくなる。蒸気圧曲線において、温度を上げると蒸気圧が上がることに対応している。



さらに温度を上げていくと、大部分の分子が大気圧と対等な圧力をもつ元気な分子となり、液体内部においても気化し泡を形成する。蒸気圧曲線において、大気圧と等しくなる温度での現象であり、この現象を**沸騰**、この時の温度を**沸点**という。泡の中身は空気ではなく水蒸気であり軽いので水中を登って液面に達し、気体として外に飛び出す。また、周囲の圧力が高いと沸点が上がる。圧力鍋を使うと高温で調理できるのはこのためである。一方、圧力が低いと沸点は下がる。富士山頂での気圧は通常の6割くらいしかなく、水の沸点は88℃にまで下がる。

気化：液体から気体になる現象

沸騰：液体の内部から気化が起こる現象
（沸騰の起こる温度を**沸点**という）

蒸発：液体の表面から気化が起こる現象
（沸点に達していなくても起こる）

来月は、固体も含めた三態の変化について解説する。

東日本大震災における 福島第一原発事故対応を顧みて② 一見えない敵との闘い

(株)危機対応研究所代表取締役所長
元東京消防庁警防部長
Safety Life Creator
佐藤 康雄

閉鎖空間における安全を向上する

二つめは、地下や高層ビル等の「閉鎖空間における安全を向上すること」です。社会が高度、複雑化して便利な反面、地下街や高層階のような閉鎖空間でひとたび災害が発生すると、どこに要救助者がいるか分からず、救助に進入する消防隊員にも大きな危険が伴います。このような閉鎖空間では、救助したといっても亡くなられている方が多く、何とか生きて社会復帰できる状態で救助したい。また、その救助にあたる消防隊員の安全確保を万全にしたい。

私は、現職の時から何とかこの課題を克服したいと考えていました。そこで、G空間情報やICTという最先端技術を活用して、ほとんどの人が持っている携帯電話の位置を特定することで、あたかも「建物が透けて見えるようにする」救助活動システム、「STAR (See Through Augmented Realityの略)救助システム」の研究開発を創設しました。

(一財)日本消防設備安全センターの事業として、立命館大学や名古屋大学、総務省消防庁や東京消防庁はじめ大阪市消防局、名古屋市消防局、北九州市消防局、さいたま市消防局、千葉市消防局等の消防機関、NECやニッタン、ソフトバンクその他30近い事業者等、産官学の多くの皆様にご協力いただき研究を進めました。

屋外では、衛星電波を利用したカーナビをはじめとする位置測位技術が実用化されていますが、

屋内ではその電波が届かず位置測位のシステムは実現されていません。研究当初は、閉鎖された空間で携帯電話の位置を補足するなんて夢物語と言われました。しかし、5年を超える研究を経て、この間の技術の進展もあり製品化のめどが立ってきました。

「消防防災展2018」において、ビルや地下の要救助者や救助隊員を同時に把握できる次世代の救助システムとして試作品を展示し、1,800名を超える多くの方々に体験していただく機会を提供できました。令和2年度の「危機管理展」にも展示されました。

さらに、令和元年度の「消防白書」の特集「Society5.0時代におけるAI等の活用」の中で、「G空間情報とICTを活用した大規模防火対象物における防火安全対策の研究開発」として掲載されました。現在、消防庁の補助金を得て社会実装に向けて研究が継続されています。

建物の中や地下にいる要救助者の位置や、救助に入る隊員の位置等が「あたかも透視するかのよう確認できるシステム」が実現するのも間近です。救助活動等も劇的に変わると思います。要救助者が生きて社会復帰できる確率が高まり、消防職員の安全も飛躍的に高まるものと期待しています。

Dream comes true(夢は叶う)

「10人以上の有志が集まれば夢は叶う、予算などは後からついてくる。」というのが私の信条です。消防はじめ社会の様々な分野で活躍し次世代を担う皆様、同じ志を持つ仲間が協働すれば夢は叶います。皆様の絆によりコロナ禍等の難局を乗り越え、より良い社会を創っていただくことを願って結びとさせていただきます。

長い間お読みいただきまして有難うございました。私の拙文が、少しでも皆様のお役にたてれば幸甚です。(完)

防爆冷温機器の Daido



防爆スポットクーラー

防爆冷凍冷蔵庫
DGFシリーズ(150ℓ～)

◆防爆スポットクーラー◆

第1類、第2類危険箇所での使用可能なスポットクーラーです。夏季の危険場所での熱中症対策や高温の労働環境改善に。

◆防爆冷凍冷蔵庫◆

危険物倉庫内の第4類危険物の低温保管、また反応活性を抑え冷暗保管が必要な引火性試薬の保管に施設機能付防爆冷蔵庫。



防爆シーズヒーター

防爆自己制御ヒーター

- 危険場所での凍結防止、反応容器の熱源に防爆シーズヒーター。
- 低温で固化する引火性薬品の安全な融解や引火性のある塗料・接着剤の粘度安定化に防爆自己制御ヒーター。



株式会社 大同工業所

大阪府東大阪市楠根1丁目6番45号
TEL 06-6746-7141 FAX 06-6746-7195
http://www.daido-ind.co.jp

防爆電気機器を安全に設置、運用、保守頂くために、(一社)日本電気制御機器工業会が推奨するSBA-Ex(防爆電気機器安全資格)等の防爆専門知識を保有・活用されることをお勧めします。

「国からの通知」

総務省消防庁からの最近の危険物関連の通知は、以下(抜粋)のとおりです。(詳しくは、最寄りの消防本部にお尋ねいただくか総務省消防庁ホームページをご覧ください。<https://www.fdma.go.jp/laws/#notice>)

◆消防危第158号 ガソリンの容器詰替え時等における本人確認等の再徹底について(通知)(令和4年7月11日)

ガソリンスタンドにおいてガソリンを容器に詰め替えるときの本人確認等については、「ガソリンを容器に詰め替えるときの確認等に係る運用要領について」(令和元年12月20日付け消防危第197号)及び「容器入りのままで販売されるガソリン等の適切な使用の確保等について」(令和2年3月11日付け消防危第60号)により、周知をお願いしているところです。

昨年12月17日に大阪市北区において、多数の死傷者を伴うビル火災が発生したことから、総務省消防庁と国土交通省では、「大阪市北区ビル火災を踏まえた今後の防火・避難対策等に関する検討会」を開催し、今後取り組むべき防火・避難対策等について検討してきました。このうち、ガソリンの販売については、現在義務付けられている顧客の本人確認等の適正な運用やガソリンを購入しようとする者に不審な点を感じた場合の警察への通報要領について、周知を図ることとされました。

つきましては、貴管内の給油取扱所等のガソリン販売店における購入者に対する本人確認等について、改めて周知を図っていただくとともに、消防隊による見回りや立入検査の機会を通じて、適正な運用の徹底を図っていただきますようお願いします。

また、ガソリンを購入しようとする者の言動に不審な点を感じた場合の通報について、別紙の通報要領により従業員への教育等を行い、適切な通報の実施に努めるよう併せて周知を図っていただきますようお願いいたします。

◆消防危第175号 屋外貯蔵タンク周囲の可燃性蒸気の滞留するおそれのある場所に関する運用について(令和4年8月4日)

プラント内の危険物施設における可燃性蒸気の滞留するおそれのある場所(以下「危険区域」という。)の設定等については、「危険物施設における可燃性蒸気の滞留するおそれのある場所に関する運用について」(平成31年4月24日付け消防危第84号。以下「84号通知」という。)により運用をお願いし、「危険物施設における防爆ガイドラインの活用等について(情報提供)」(令和3年3月30日付け事務連絡)及び「防爆ガイドラインの解説書について(情報提供)」(令和3年3月31日付け事務連絡)により情報提供しているところですが、84号通知で示している「プラント内における危険区域の精緻な設定方法に関するガイドライン」は危険区域を精緻に設定できるものの、設備ごとに複雑な計算等を行う必要があります。

このことから、消防庁では「危険物施設におけるスマート保安等に係る調査検討会」を開催し、比較的単純な構造物で類型化が容易であり、高所の点検等において防爆構造を有しないドローン等の機器の活用が期待される屋外貯蔵タンクについて、可燃性蒸気を実測して評価し、危険区域を具体的に示すことを目指して検討しました。

今般、その検討結果を踏まえ、屋外貯蔵タンク周囲の危険区域について、84号通知等による運用に加え、下記のとおり取りまとめましたので、貴職におかれましては、当該留意事項について、危険物施設の関係者への周知をお願いします。

記

1 危険区域の範囲

次の要件に適合する屋外貯蔵タンクの周囲(屋外貯蔵タンク上部及び防油堤内のうち水切り作業時の排水が残留している可能性のある溜めます内部を除く。(図1参照))については、危険物の規制に関する政令第24条第1項第13号に規定する「可燃性の液体、可燃性の蒸気若しくは可燃性のガスがもれ、若しくは滞留するおそれのある場所又は可燃性の微粉が著しく浮遊するおそれのある場所」(危険区域)に該

当しないものとする。

- (1) 危険物の受払いや水切り作業等の特別な作業が行われておらず、貯蔵のみを行っている状態であること。
- (2) 実際にドローンその他の非防爆構造の電気設備・器具を使用する場合の当該区域内において、風速計等における風速が2 m/s 以上であること。

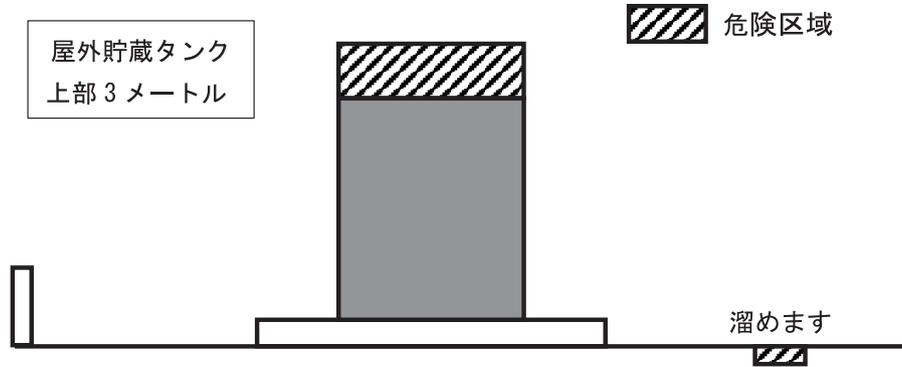


図1：浮き屋根を有する屋外貯蔵タンク周囲の危険区域の例

なお、屋外貯蔵タンクから出ている配管にフランジやバルブといった放出源の疑いのある部分がある場合には、その部分について別途「プラント内における危険区域の精緻な設定方法に関するガイドライン」等により危険区域を評価する必要があるので留意すること。

2 安全対策について

- (1) 1の危険区域の運用については風速が要件の一つとなっていることから、原則としてドローンその他の可搬式の非防爆構造の電気設備・器具を使用する場合を想定していること。
- (2) ドローンを使用する場合は、「プラントにおけるドローンの安全な運用方法に関するガイドライン Ver3.0」(2022年4月石油コンビナート等災害防止3省連絡会議)を参考に、ドローンの落下防止のため一定の風速を超えた場合に作業を中止する等、安全対策を講じること。
- (3) 1の運用を行っている区域内で火災や危険物の流出事故が発生した場合には、ドローンその他の可搬式の非防爆構造の電気設備・器具の使用を直ちに停止し、当該区域外に退避すること。
- (4) 危険区域外であっても、予期せぬ場所に蒸気又はガスが滞留しているおそれがあることから、ドローンその他の可搬式の非防爆構造の電気設備・器具の使用に当たっては、事前に防爆構造のガス検知器等により安全を確認すること。

3 その他

1によらず危険区域を定める場合や常時設置する非防爆の電気設備・器具を使用する場合は、「プラント内における危険区域の精緻な設定方法に関するガイドライン」や実測により危険区域を評価すること。



設計 製作 販売

タンクトレーラー・タンクローリー・タンクコンテナ・ポータブルタンク

特殊液体輸送の信頼できるパートナー

TONAN 東南興産株式会社

本社 〒552-0021 大阪市港区築港4丁目1-1 辰巳商会ビル7F TEL 06-6576-1901 FAX 06-6576-1950
 特装部 〒554-0052 大阪市此花区常吉2丁目10-39 TEL 06-6463-0005 FAX 06-6466-1316
<http://www.tonan-kosan.co.jp>

岸和田を愛し防災を考えて 今日ここに

岸和田市火災予防協会
岸和田市婦人防火クラブ
西田 和子

私はこの度、岸和田市火災予防協会の推薦を頂き、大阪府危険物安全協会より地域活動功績者表彰を頂きました。誠に光栄に思っております。思い起こせば31年前、岸和田市火災予防協会の婦人防火クラブに入会し、「家庭防火は主婦の手で」のキャッチフレーズの下、クラブ員の皆様と一緒に、初期消火訓練、応急救護訓練、講話・講演の聴講、防火・防災研修会では各種防災施設の見学、市内の大型物販店で実施する防火イベントで住宅用火災警報器設置促進チラシの配布など、仲良く楽しく活動を重ねて参りました。最初は消火器の取り扱いも出来なかった仲間たちも今ではベテランとなり、毎年開催される市の総合防災訓練では救助救急訓練に参加し、救出された被災者にAEDを使用して救命措置を行っています。



クラブ活動の中で特に思い出深い体験は、2003年10月に神奈川県横浜市で開催された「第16回全国女性消防操法大会」に、岸和田市が大阪府代表として出場した事です。クラブ員の中から私を含む8名が選出され、消防職員の教官の下、岸和田競輪場において6ヶ月に及ぶ厳しい夜間特訓を受けました。そして、大会前日の10月22日は、大会会場である日本消防協会中央消防訓練場（横浜市消防訓練センター）で、生憎の雨の中でしたが予行演習を行いました。

翌朝、好天に恵まれ、地元岸和田からの応援団と共に会場に入った時は、本当にこれから挑むのだと思うと緊張と興奮で胸が苦しくなりました。

結果は全国から47チームが出場し、残念ながら入賞は逃しましたが、チームが一丸となって全力を出し切り悔いのない操法を行う事が出来ました。この全国大会出場は、我々岸和田市婦人防火クラブにとってかけがえのない経験となり、また私の一生の思い出となりました。当時の選手たちは、今も婦人防火クラブに所属し、コロナ禍で各種事業が中止や縮小を余儀なくされていますが、いつも活発に地域の防火・防災活動に活躍しております。



そして、これからの私たちの課題について考えたとき、1923年9月1日に発生した関東大震災は来年で100年を迎えます。改めて地震多発国の日本にとって、忘れてはならない地震防災の知識を今一度考えるべきではないでしょうか。近い将来起こる南海トラフ巨大地震を真剣に考えなければなりません。私たちは日頃何不自由なく暮らしていますが、ひとたび大規模な災害が発生すると、物質的及び精神的な共助が重要であることを認識しなければなりません。また、コロナ禍での避難生活では、感染拡大防止も重要な課題となるでしょう。災害を完全に避けることは難しくても、被害を最小限に抑えることはできます。そのためには、建物の耐震化や家具の固定、避難先の確保など、日頃から災害に備えて準備しておくことが大切です。

また今日、石油類を始めとした危険物が日常生活のあらゆる分野に浸透し、社会生活の向上に大きく貢献していますが、大地震による二次災害やその取り扱いを誤ると、非常に甚大な災害を引き起こす潜在的な危険性を有しています。危険物の貯蔵、取扱には法令を遵守し、細心の注意を払う必要があります。私たちは、これからも災害に強い街づくりを目指し、防火思想の普及啓発や予防・安全対策の充実強化を実践してまいります。

都市との共存 — 正確 安全 確実 — 危険物設備なら信頼の技研。

危険物タンクの漏洩検査
〈平成16年4月1日法改正対応〉

- 危険物設備の設計・施工
- 発電設備(非常用)燃料タンクの製造・販売
- 危険物タンクまわりの付属機器の販売

危険物設備の安全をトータルにリードする

GIKEN

株式会社 技研

〒663-8113 兵庫県西宮市甲子園口2-24-12 TEL.0798-65-5100 (代表)